



職人紹介 Shokunin File

ナルシマの職人としてももう20年。采女棟梁は繊細な手仕事で抜群の腕前を發揮してきました。小学校時代から絵や工作が好きで大工に憧れ、高卒後は家具デザインの勉強もしたという経歴が、今の仕事ぶりにつながっているようです。

23歳の時に柏市の工務店に弟子入りしたのが、采女棟梁の大工としてのスタート。「周りがきれいだ仕事も丁寧に見える」と、一貫して現場の清掃には気を遣ってきました。仕事に集中している時は強面ながら、話し始めると笑顔が素敵。細部まで妥協しない性格の故か、「こうした方が良いでしょう」と現場で提案をすることもあって、良い家にしたという気持ちがお客にも伝わるのでしょう。完成時に直接ありがとうと言われることも多く、お手紙をいただいたことも。「やっぱり嬉しいですね」と言う恥ずかしそうな表情に、腕前と人柄が表れています。

棟梁
采女直資
(52)



趣味は自宅に据えた薪ストーブ。
冬を楽しみにしながら
休日は薪割りをしています。



現在はナルシマ母屋の改築も担当。



複雑な木組みに合わせて細工も慎重に。



ここ数年「削ろう会」という伝統技術を究める団体の全国大会に出場して腕を磨いているそう。(左/修業時代から使っているカンナとノミ。右/細かな仕上げに使うカンナなど愛用の道具の数々。)

Shokunin File.07

Naosuke
Uneme